

ある時、吾蔵が美術館で石膏のデッサンをしているのを見て、フランスの彫刻家ロタンが助手になるよう依頼してきた。しかし、吾蔵の芸術家としての資質はマクモニスの作風に近く、目指すものはそれであったので、その誘いを断った。

一九二二(大正元)年には、吾蔵はフランス国立美術学校エコール・デ・ボザールへ入学した。ここで、日本人初となる特待生とくたいせいになった。この頃、マクモニスが依頼を受けていた公共彫刻は、ニューヨーク市庁舎前の噴水彫刻『市民道徳』、ニューヨーク図書館玄関前の『美と哲学』等であった。



プリンストンの戦い記念碑
1922(大正11)年設置
ニュージャージー州
プリンストン大学近郊公園内

●完全なる乳牛模型で表彰

一九一六(大正五)年、フランスからアメリカへ戻った吾蔵に、ミネソタの酪農家パブストが、理想的な体型の乳牛模型を依頼してきた。吾蔵はアメリカ・カナダ等の牧場を回って研究し、七年後に『完全なる乳牛模型』を完成させた。この作品は全米牧畜業大会で

表彰され、吾蔵は「牛のGOZO」と言われるようになった。

この模型はアメリカ・カナダ・ヨーロッパ・日本等の農科大学へ設置された。



ホルスタイン種乳牛 牝 1923(大正12)年
川村吾蔵記念館所蔵

さらにこの頃、フランスで原型を制作していた『市民道徳』・『美と哲学』・『プリンストンの戦い記念碑』等はマクモニスと共同で拡大制作され、それぞれの場所へ設置された。一九三五(昭和10)年には、フシントン最高裁判所入口の『正義』も制作した。

●胸像制作で人間性表現

一九四〇(昭和15)年、日本の名のある人々の胸像制作を要請され、吾蔵は37年ぶりに帰国した。しかし、次の年には太平洋戦争が始まり、思うように制作は出来なかった。

一九四五(昭和20)年に敗戦となり、連合国軍としてアメリカ軍が進駐してきた。長野県の嘱託で通訳をしていた吾蔵が、アメリカで活躍した「GOZO」であることが将校に知られると、横須賀基地へ美術最高顧問として招かれた。吾蔵はここで将校たちの胸像等

を制作していたが、一九五〇(昭和25)年に65歳で胃癌がんで没した。

吾蔵は、交流のあった野口英世や島崎藤村を始め、片倉兼太郎かたぐらかねたろう、徳富蘇峰とくとみそほう、尾崎雪堂おきかゆきどう、斎藤博大使、ヘリン・ケラー、マッカーサー等、名高い人々の胸像を造ってきたが、それは、優れた人々の「深い人間性」の表現を追い求めたからであった。

なお、二〇一〇(平成22)年四月に、龍岡城五稜郭の脇に市立の「川村吾蔵記念館」が開館した。

(丸山正俊)



島崎藤村
1943(昭和18)年



マッカーサー元帥
1949(昭和24)年

川村吾蔵記念館所蔵

参考文献

- 川村栞 『履歴書川村吾蔵』
- 『正統なる造形GOZO』第一生命保険相互会社文化事業室
- 川村洋一郎 『彫塑家川村吾蔵』 白田町文化センター
- 飯沼信子 『彫塑家川村吾蔵の生涯』 舞字社
- 『没後50年川村吾蔵図録』 長野県信濃美術館

佐久の先人たち⑪

アメリカで活躍した彫刻家

かわむらごぞう

川村吾蔵

(1884~1950年)



アメリカで彫刻を学んだ川村吾蔵は、酪農家の依頼で「完全なる乳牛模型」を制作し、牛のGOZOと名を高めた。彼は野口英世、マッカーサーなど名高い人々の胸像を造ったが、それは深い人間性を表現するものであった。

内国勧業博覧会に油絵が入選したり、明治美術会展に水彩画を出品したりしていた。また、アメリカ・ヨーロッパを旅して絵画展を開催し、帰国後は太平洋画会に参加、小諸義塾の図画教師となった。

吾蔵は中学卒業後、切原尋常小学校（現切原小学校）の代用教員を数か月勤めた後、遠縁にあたる横浜の貿易商の山本商店へ就職した。ここに、ロンドン・ウィーンに留学しピアニストになり、東京音楽学校（現東京芸術大学音楽学部）の教師となった山本清子がい、吾蔵に海外の話聞かせた。

その後吾蔵は芸術家を目指して渡航するのであるが、晚霞と清子の影響が大きかったといわれる。

吾蔵が中学を卒業の年に父母が相次いで亡くなった。翌一九〇四（明治37）年、父母の一周忌を済ませ、兄増太郎の許しを得て、親戚の人々にも見送られ、横浜港からアメリカに向けて旅立った。そして北東部の都市ポストンに着いた吾蔵は、諏訪出身で晚霞の知人、古美術商をしていた松本文恭の店の手伝いをしながら生活を始めた。

●ニューヨークのアカデミーへ

吾蔵はまず、ポストンのハイスクールで英語を学び、次の年の一九〇五（明治38）年には、デッサン・スクーールへ入学した。この学校の教授に彫刻家のキットソンがいて、吾蔵はこの教授の助手となった。

これが彫刻家への道の第一歩であった。翌一九〇六（明治39）年にはニューヨークのナショナル・アカデミー・オブ・デザインの彫刻科へ入学し、ペイン（女史）教授の助手となった。

ここで吾蔵は、立体拡大機（エンラージング・マシン）を改良して完成させ、特許を取った。これがその後の吾蔵の彫刻家としての活動に大きな力となった。この学校では、二年連続で彫刻コンクールの一等賞をとった。



エコール・デ・ボザール在学中の吾蔵

一九一〇（明治43）年、吾蔵はペイン教授の紹介でフランス在住のアメリカ人彫刻家マクモニスを紹介されフランスへ渡った。マクモニスはアカデミック（学究的）な作風の彫刻家で、アメリカから多くの公共彫刻を依頼されており、ここフランスでは原型の制作を行っていた。吾蔵は助手としてその制作にあたった。また助手を勤めながら、フランスやイタリアの美術館・博物館へ出向き彫刻の研究を続けた。

●芸術家を目指し渡米

彫刻家川村吾蔵は一八八四（明治17）年南佐久郡臼田村（現佐久市臼田）上宿に川村豹治（後に兵次郎と改名）・せむの三男として生まれた。一八九七（明治30）年に臼田尋常小学校（現臼田小学校）を卒業し、長野県尋常中学校上田支校（現上田高校）に入学、学校近くの寺に下宿して通学した。

この中学在学中に母方の従姉妹が小県郡津村（現東御市）の丸山健作（晚霞）と結婚し、晚霞と吾蔵との交流が始まった。晚霞は既に明治美術会会員であり、